

## 子どもの便秘

もとはしクリニック 本橋 和夫 先生

便秘とは通常、週二回以下の排便回数のことを指しますが、排便回数が週二回以上でも、固い便が形成されて、腹部膨満や腹痛、排便時の肛門痛を伴っている場合は、便秘と考えます。

小児の便秘の原因には、年齢的な特徴がみられます。新生児期より生ずる便秘には、消化管の狭窄や閉塞、ヒルシュプリング病などの先天的な病気が原因となっているものが多く見られます。

この時期に自発的排便の見られない場合には、専門医に相談して下さい。

乳児期の便秘では、授乳量の不足や腸管内で消化されにくい繊維成分が不足した離乳食が原因となることが多くなります。偏食をなくす意味でも重要な時期になりますので、正しい離乳食の知識をつけてください。

この時期の治療としては、肝門刺激、浣腸が中心で、習慣性が生じるため、下剤の投与はあまりしません。

幼児期以降では食物繊維の不足した偏食による便秘以外に、多様な理由で排便を嫌ったり我慢することによる便意よく便意抑制性の便秘が多くなります。早期からの排便訓練の開始や、排便するまで強制的に長時間トイレに座らせることなどによる不適切な排便訓練、遊びの最中や、学童では授業中などの理由で便意をくり返し我慢すると、直腸内に糞塊が停滞します。このため大きな糞塊によって慢性的に直腸壁が伸展して、通常量の糞塊が直腸にあっても便意を生じにくくなり習慣性の便秘を生じます

規則的な排便習慣が治療には重要となります。

---